

令和7年度 第3号

2026.2.18

子ども未来サポート

CoCoMo だより

上越市立教育センター 教育支援室

「耳を傾ける」

子ども未来サポート CoCoMo 指導員 田中 敦

当室に通っている子どもたちと接していると、話ができない子どもたちが確実に増えていることを感じます。自分の趣味や特技、好きな食べ物、家でどのように過ごしているかなど誰もが答えられそうなことを問うても、単語しか返ってきません。今まで接することがなかった私との会話だからやむを得ないのかと考えても、あまりにもさみしいのです。ゲームやタブレット、スマホを使用した、一人遊びが中心の弊害なののでしょうか？私は人と話をするのが好きで、その会話を通じ、その人の人となりを感じ、その人とどのように付き合ったらよいか考えてきました。彼らには会話などどうでもよいことなのかもしれません。しかし、少しずつ会話を進めていくと、会話が変化してきます。言葉が増えてきます。感情が増してきます。

よく聴こうと思えば、自然に身体が前に出る。耳を傾ける。耳を傾ければ、一言一句がシンシンと胸にしみわたって言外の言すらも、聴こえる思いがする。

だから、人の言葉が、わが身の血となる。肉となる。血となり肉となって、心ゆたかに更に新しい知恵がわく。

人の言に耳を傾けない態度は、みずから求めて心を貧困にするようなものである。どんな賢人でも、その人ひとりの知恵には限りがあって、だから自分の知恵才覚だけで事を運べば、考えがたかくなになる。視野がせまくなる。

世のなかのあわたたしさに追われて、事を急ぐあまりに、ともすればひとりの知恵、ひとりの判断で事を処しがちなきょうこのごろである。

しかしやはり、他人の言はよく聴きたい。どんな人の言葉も、どんな人の考えも、それが真剣であればあるほど、身をのり出すほどの思いで、よく聴きたい。一人よりも二人に、二人よりも三人に、できるだけ多くの人から、できるだけ多くの話を聴いて、そしてわが心を養い、わが知恵を誤りなくゆたかにしたい。

(松下幸之助『続 道をひらく』PHP 研究所、2008年、41刷)

松下幸之助が『続 道をひらく』に記した「耳を傾ける」という一文です。学校は目まぐるしいほど忙しく、気持ちにゆとりがなくなっている先生方も多いのではないかと思います。私もそうでした。しかし、あえて時間をさき、時には子どもの話にじっくりと耳を傾け、会話を楽しむ時間も必要なのではないかと考えます。そこから様々な発見や子どもとの信頼関係、子どもへの親しみが生まれるのではないのでしょうか？あのとき、もっと子どもの話をじっくり聴いておけばよかったなどということがないように、一人一人の子ども話を真剣に身をのり出すほどの思いで聴きたいものです。

CoCoMo 南の一年を振り返って

今年度、CoCoMo 南に登録・通室した児童生徒数は、以下のとおりです。(令和8年1月末 現在)

- | |
|---|
| ○小学生《 10名》(1年 男子1名)(2年 男子1名)(4年 女子2名)
(5年 男子1名 女子1名)(6年 男子1名 女子3名) |
| ○中学生《 19名》(1年 男子2名 女子3名)(2年 男子2名 女子3名)
(3年 男子6名 女子3名) |

計【29名】

○登録・通室の状況

今年度 CoCoMo 南に登録した児童生徒は、昨年度の同時期より11名減っています。そのうち学校復帰に至ったと判断できる児童生徒が13名います。通室生は自身の体調や生活リズム等に合わせて、在室時間等を調整しながら、以下のようないろいろなパターンで活動を行っています。



【学習の様子】

- ・午前のみ、午後のみ、昼食持参で午前・午後を通した通室
- ・心身の状況に応じて、学校への登校か CoCoMo 南への通室かを決めた通室
- ・学校の給食や諸活動により、学校に登校する日と通室する日を決めた通室
- ・学校や他の施設を利用し、CoCoMo 南にも通室する 等

○学習の状況

自主学習を基本としながら、以下のような学習ができるように指導・対応しています。
加えて指導員が児童生徒の要望による個別の学習指導を行いました。



【諸活動の様子】

- ・学校の副教材(プリント、ドリル、問題集)を使った学習
- ・学校からの個別の学習プリント、CoCoMo 南で用意する学習プリントを使った学習
- ・タブレットによる調べ学習
- ・学校の1人1台タブレットを持参し、リモートで授業の様子を視聴した学習
- ・単元テストや定期テスト等の受験

○諸活動の状況

「自分の心身の状況から判断し、活動を決定する」ことに重点を置き、以下のような諸活動を行っています。

- ・日常の気付きや趣味嗜好等の興味関心事項、将来の夢、自分のストレス等について、指導員との自由会話
- ・スクラッチアート、読書、アイロンビーズ、ジグソーパズル、タブレット等による個人での諸活動
- ・ウノ、オセロ、人生ゲーム、ジェンガ、卓球等による指導員や通室生を交えての諸活動

通室児童生徒は、学年や発達段階、医療や福祉等の専門機関との連携の有無、不登校の理由・原因など、一人一人の状況も多様です。申し込みは済ませたが、1日も通室していない児童生徒もいます。CoCoMo 南は、これら児童生徒の一人一人にとって「安心できる居場所」となることを大切にしながら、通室生一人一人との「心のキャッチボール」に重きを置き、「学校復帰や社会的自立の土台づくり」を目指して指導・対応を進めています。通室生は自分の思いや考えをうまく言葉にできないことが多く、指導員から積極的に声掛けをすることで、楽しく会話を行えるようになった通室生もいました。このようなコミュニケーションのスキルを学校やこれからの生活の中で使うことで、自信が育ち、社会的自立が可能になっていくことと期待しています。

通室生一人一人の成長は、本人の努力はもちろんです。それを可能にする送迎をはじめとする家庭の支援や、学校の支援体制の下で一人一人に合った個別の指導や対応があったからに他なりません。今後も連携を大切にしながら、CoCoMo 南の運営を着実に進めてまいります。1年間、ありがとうございました。

(CoCoMo 南 目細 敏子 田中 敦)

CoCoMo 北の一年を振り返って

今年度、CoCoMo 北に登録・通室した児童生徒数は、以下のとおりです。(令和8年1月末 現在)

○小学生《10名》 (2年 女子2名)(4年 男子2名・女子1名)(5年 男子1名)
(6年 男子1名・女子3名)

○中学生《36名》 (1年 男子4名・女子7名)(2年 男子3名・女子7名)
(3年 男子7名・女子8名)

計【46名】

「子どもたちが安心できるもうひとつの居場所として通室してもらうこと」「社会的自立に向けた土台となる力を少しでも養うことができるよう支援すること」本年度もこの2点を目標に運営してきました。

○登録および通室の状況

実際の通室の状況は以下のとおりです。

- ・毎日のように通室し一日を過ごす
- ・午前や午後あるいは決まった1時間など自分で決めた時間だけ通室する
- ・週に1・2日決まった曜日に通室する
- ・困ったときに行く場所と考え必要に応じて通室する

この中には、学校とCoCoMoを併用している子ども、他の教育施設の利用と登校、CoCoMoを組み合わせている通室生もいます。

また、CoCoMoに来ることを家から出る機会と捉え、名簿に出席の○印を付けて挨拶のみで帰る子どももいます。また、学校に復帰しても、隙間の時間を見つけて顔を出す子どももいます。それぞれ自分の状態に合わせて活用してくれています。

○活動の状況

CoCoMo 北では、各自が準備した学習教材で自主学習を進めるのが基本です。ワークやドリルを使って真剣に机に向かう姿が見られます。併せて、学年が同じもの同士、学習意欲が湧かない同士で誘い合って学習する姿も見られます。それらに対して、指導員は適度な距離感を保ちながら援助要請があると支援を行います。原則、個別指導ですから、現在の学年の内容にこだわる必要もなく、分からないところを分かるようになるまで繰り返し質問することができます。ときには指導員の専門外ですぐに答えられずに「一緒に考えよう」なんてこともあります。いつでも即時に個別指導できるところがCoCoMoの強みです。この他にも、単元テスト、定期テストや実力テストをCoCoMoで受ける中学生もいます。また、iPadを活用して調べ学習を進めたりリモート授業へ参加したりする子どももいます。

学習の力を付けることだけがCoCoMoの目標ではありませんが、自己肯定感を高めるためにも、また、進路を考える上からも大切なことだと感じています。そのために指導員はもちろん、不定期に学習支援に来てくださる上教大の学生ボランティアとも協力して「学び直し」へのサポートに努めています。

○楽しい活動がいっぱいのCoCoMo 北

学習の他に、通室生が楽しく過ごせるようにカードゲーム、ボードゲーム、パズル、電子ピアノ、卓球、アイロンビーズなどをそろえています。またCoCoMo 北独自のお楽しみイベントの他、学びの交流館イベントホールをお借りして伸び伸びと体を動かすこともできます。通室生同士がお互いにコミュニケーションをとり、笑い合い、自己を表現しながら、社会性を少しずつ高めてくれたものと

確信しています。本年度も校長先生をはじめ先生方から緊密に連携していただき、通室生一人一人の着実な歩みを見とることができました。心から感謝申し上げます。(CoCoMo 北 片山亜梨早 遠藤和英)



(仲間同士で学習中)



(パンケーキ作り)



2025 冬のイベント「クリスマス会」

～ みんなで役割分担 みんなで協力 みんなで楽しく みんなで運営 ～

12月12日（金）に CoCoMo 南を会場に冬のイベント「クリスマス会」を実施しました。小学校4年生から中学校3年生までの17人（他保護者1人）が参加してくれました。また上越教育大学の学生2人もボランティアとしてサポートしてくださいました。会場の飾り付けとランチづくりでは、互いに相談しながらそれぞれがしっかり自分の役割を果たしていました。その後の会食とレクリエーションでは、楽しい時間を過ごすことができました。みんなで協力しあって自己の役割をしっかりと果たし、有意義なクリスマス会にすることができました。自己肯定感を大いに高めた大成功のイベントとなりました。



開会式 熊木所長のお話



さあ！ 飾りつけのスタートです



あっという間に壁がにぎやかに



調理前に 記念に1枚



調理風景 チキン班



タルタル班



ミルクレープ班



スープ班



つくった食事をみんなで味わいます



最後は賞品目指してビンゴゲーム

- 今年のメニュー
- タルタルチキン
 - スープ
 - ミルクレープ
 - パン